

第92回リニアドライブ技術委員会議事録案

日時：平成16年12月3日(金) 13:30～16:30

場所：JR東海品川ビルA棟 中会議室1

出席者：委員長 大崎（東京大）
 副委員長 北野（JR東海）
 委員 小豆澤（神戸大）、海老原（武蔵工業大）、苅田（JST）、築島（三菱電機）、
 脇若（信州大）、渡辺（FDK）、楡井（長野高専）、山根（産総研、代理西田）、
 矢野（産総研）、古関（東京大）
 幹事 水野（信州大）
 幹事補佐 真田（大阪府立大）、鳥居（武蔵工業大）

提出資料

- 92-1 第91回リニアドライブ技術委員会議事録案（鳥居幹事補佐）
- 92-2 リニアドライブ技術委員会名簿（鳥居幹事補佐）
- 92-3 第75回産業応用部門研究調査運営委員会議事録（案）（大崎委員長）
- 92-4 部門研究調査規程細目（大崎委員長）
- 92-5 ○○○○○○○○○調査専門委員会設置趣意書（大崎委員長）
- 92-6 電気学会技術報告(A4判)原稿執筆の手引き（大崎委員長）
- 92-7 平成16・17年度リニアドライブ関連各委員会予定一覧（鳥居幹事補佐）
- 92-8 LD技術委員会傘下の各委員会の資料提出スケジュール（案）（真田幹事補佐）
- 92-9 超電導応用電力機器・リニアドライブ合同研究会（北野副委員長）
- 92-10 委員会構成員変更届（北野副委員長）
- 92-11 第5回産業用リニアドライブ国際シンポジウム(LDIA2005)の準備状況について（小豆澤委員）
- 92-12 H16年論文発表賞A(研究会)候補者割当数（部門表彰）（北野副委員長）
- 92-13 リニア電磁駆動装置解析手法の体系化調査専門委員会解散報告書（楡井委員）
- 92-14 超電導磁気浮上式鉄道の技術的成熟度調査専門委員会解散報告書（一次案）（北野副委員長）
- 92-15 産業用リニア電磁駆動システムの要素技術調査専門委員会設置趣意書（案）（鳥居幹事補佐）
- 92-16 リニア電磁駆動装置解析手法の体系化調査専門委員会（LMD）活動報告（楡井委員）
- 92-17 多自由度モータとその要素技術調査専門委員会（MDD）活動報告（矢野委員）
- 92-18 超電導磁気浮上式鉄道の技術的成熟度調査専門委員会（SLD）活動報告（北野副委員長）
- 92-19 産業用リニアモータの特性測定法と評価方法調査専門委員会（MEL）活動報告（水野幹事）
- 92-20 第15回リニア電磁駆動装置解析手法の体系化調査専門委員会議事録（楡井委員）
- 92-21 第3回多自由度モータとその要素技術調査専門委員会議事録（矢野委員）
- 92-22 第8回超電導磁気浮上式鉄道の技術的成熟度調査専門委員会議事録（北野副委員長）
- 92-23 第9回産業用リニアモータの特性測定法と評価方法調査専門委員会議事録（水野幹事）
- 92-24 医用電磁駆動システム産業振興のための協同研究委員会（ECD）解散報告書（山根委員）
- 92-25 医用アクチュエーション技術に関する協同研究委員会設置趣意書（案）（山根委員）

議事

1 議事録確認

資料92-1を用いて議事録確認を行い、承認された。

2 報告事項

2.1 資料92-2を用いて、委員会名簿の確認を行った。

2.2 資料92-3から92-6を用いて、大崎委員長より、D部門研究調査運営委員会の報告があった。LMD, MEL, ECDの3委員会の解散が承認された。SLDの報告書未提出の対処については確認する。発表賞の締切は年内とすることが確認され、また資料92-6のように、技術報告提出時には和文・英文要旨が必要となったので、これから執筆する各委員会でそれぞれ対応するよう依頼があった。周知のように委員変更届が簡素化された。また、各調査委の提出資料について、複写権の取り扱い上の問題から、非公開資料とし、審議後回収・廃棄されたものとして扱うことがアナウンスされた。

H17 全国大会のシンポジウムは SLD 委からの提案で決定されたこと、また技術委員会の性質の見直しが議論されたことが報告された。また、資料 92-4 及び 92-5 が提示され、調査専門委員会等の設置・解散に関する規程や書式を再度確認するよう要請があった。

- 2.3 資料 92-7 を用いて、平成 16・17 年度各委員会の予定を確認し、以下の修正があった。
- (1) LD 研究会：1/27,28 の開催場所を京都に変更
 - (2) LMD 委員会：1 月開催予定を 1/28 に決定
- H17 年度の研究会開催予定を、5 月下旬から 6 月上旬[MEL]、7 月[SLD](TR 共催)、11 月[MDD][ECD]、1 月[SLD](ASC 共催)とした。また、H17 年度の LD 技委開催予定を 4,7,10,12,2 月とした。
- 2.4 資料 92-8 を用いて、真田幹事補佐より、資料提出スケジュールについての確認が行われた。
- 2.5 資料 92-9 を用いて、北野副委員長より、1/27,28 実施予定の超電導応用電力機器・リニアドライブ合同研究会についての紹介があった。発表数は 21 件で、京都大学桂キャンパスにて開催される。
- 2.6 資料 92-10 を用いて、北野副委員長より、SLD 委の委員追加の報告があった。
- 2.7 資料 92-11 を用いて、小豆澤委員より、LDIA2005 の準備進行状況についての説明があった。ICEMS と日程が重なることが判明したが、LDIA の日程変更は会場の都合で不可能であり、ICEMS も結局変更せず、重なったまま双方開催することになった。各種助成金の申請を行うとの報告があった。また、部門誌投稿について、4 頁原稿で査読するのが良いが時間的余裕が少ないとの議論があった。
- 2.8 資料 92-12 を用いて、北野副委員長より、H16 論文発表賞 A の候補者選定についての説明があった。資料に基づき、LD 研究会は本部 2 名、部門 2 名の計 4 名となる。他技委との共催分についてはそれぞれ調整することとした。

3 審議事項

- 3.1 資料 92-13 を用いて、楡井委員より、H17 年 3 月解散が承認された LMD 委解散報告書についての報告があった。
- 3.2 資料 92-14 を用いて、北野副委員長より、H17 年 5 月解散予定の SLD 委解散報告書一次案が朗読され、審議が行われた。資料 92-5 に従って書式を改めること、実験線の達成項目ではなく委員会の審議項目を趣旨に入れることの指摘があった。また、報告書印刷部数についての議論があった。修正し、次回審議することとした。
- 3.3 資料 92-15 を用いて、鳥居幹事補佐より、H17 年 4 月設置予定の新 MEL 委設置趣意書案が朗読され、審議が行われた。字句の修正が指摘され、修正後、次回に最終案として提出することとした。
- 3.4 資料 92-24 を用いて、西田氏より、H17 年 3 月解散が承認された ECD 委解散報告書についての報告があった。
- 3.5 資料 92-25 を用いて、西田氏より、H17 年 4 月設置予定の新 ECD 委設置趣意書案が朗読され、審議が行われた。資料 92-5 に準じて構成を変更し、委員の会員番号を追加することの指摘があり、また、会員比率の増加があると良いとの意見があった。正式な比率はグレーゾーンであるが、調査専門委員会に準じる扱いとされている。アクチュエーションという観点についての議論があり、医工連携をにらみつつ、工に重点を置いているとの意見があった。さらに、幹事会の開催もあったほうが良いとの指摘があった。修正後、次回に最終案として提出することとした。
- 3.6 LD 技委の将来計画についての自由討論が行われた。現状としては、LDIA、電磁力シンポ、研究会、調査専門委員会など活発な活動が行われているが、D 部門誌掲載が少ない、部門大会での発表が少ない等の問題点がある。委員会活動などについても無理が生じている場合もあるとの指摘があった。産業レベルでの展開が多くなってきたため、連携をしっかりとすべきである、アクチュエータ全体から見た調査研究の見直しが必要であるとの意見が出た。これに関連して、精密工学会のリニア関連部会が盛況であり、実質的な議論が行われているとの報告があった。傘下委員会数が減少しているとの問題提起があり、これを受けて、超小型、サブミリアクチュエータ、非電磁アクチュエータ等のどこも扱っていない領域の受け皿が必要であるとの意見があり、新しい調専委の立ち上げや、他分野との連携を図りつつ、新しい技術委員会、学会の創設も視野に入れるべきとの指摘があった。

4 各調査専門委員会活動報告

資料 92-16～92-23 を用いて、各調査専門委員会からの活動報告があった。

以上